

一宮市 博物館 だより

No.64 2021.3

もくじ

コロナ禍での博物館の活動	1
博物館アルバム（令和2年度）	2～5
資料紹介 川合玉堂関連資料	6・7
史料紹介「士族編入再願」と伏水隊	8・9
登録有形文化財（建造物）の登録	10
令和3年度 展覧会・催し物のご案内	11・12



特別展「発掘された日本列島 2020」



出入口・受付の感染対策



コロナ禍での博物館の活動

令和2年度は新型コロナウイルスの世界的な広がりの中、博物館も活動の制限を余儀なくされました。4月10日（金）に愛知県独自の緊急事態宣言が発令され、一宮市では博物館や美術館、資料館、図書館などの公共施設が4月11日（土）から当面、臨時休館することとなりました。そして5月14日（木）に国の緊急事態宣言の対象区域から愛知県が解除されたことから、館内の感染対策を行った上で、5月21日（木）より再開しました。出入口に手指消毒用のアルコールを用意し、受付には飛沫防止対策としてビニールシートを設置しました。床には足跡のマークを1mごとに貼り付けて距離を取っていただけるようにしました。また、館内の手すりやお手洗いは拭き取り作業を毎日行うこととしました。

4月25日（土）から予定していた所蔵品による企画展「川合玉堂 墨の詩情」は日程を変更して、6月2日（火）から6月28日（日）まで開催しました。特集展示「戸島光基の一宮絵日記」についても、4月7日（火）から5月17日（日）までであった前期展示を、6月7日（日）まで延期しました（後期展示は6月9日（火）から6月28日（日）まで実施）。しかし人が密集するような行事の開催は難しく、連続講演会「尾張平野を語る25」については古墳をテーマにすでに講師を依頼済みでしたが、残念ながら中止しました。9月5日（土）から予定していた企画展「2020 一宮美術作家協会展」

についても搬入時の密が避けられないことから中止とし、代わりに8月29日（土）から9月20日（日）まで所蔵品による企画展「杉本健吉素描展『旅の空から』」を開催しました。

たいけんの森は、4～5月に予定していた「民族衣装を着てみよう」と「戦国のよろい・陣羽織の試着体験」は中止としましたが、その後の催しについては、材料が画用紙で持ち帰ることができるところから、はさみ等道具の除菌を徹底することで実施しました。尾張もめん伝承会による「はたおり・糸つむぎ体験」については、感染防止が難しいことから現在も休止の状態です。

展覧会については、企画展「禅僧の書」や市制100周年を記念した特別展「発掘された日本列島2020」など予定通り開催することができましたが、講演会や展示説明会などの関連行事は実施を断念しました。毎年恒例の企画展「くらしの道具」の際の市内小学3年生の団体見学も中止となり、オンラインでの授業となりました。オンライン授業に備えて制作した常設展示や「くらしの道具」の出品資料を紹介する映像の制作経費については、国の臨時交付金を活用しました。令和3年1月14日には再度、愛知県が国の緊急事態宣言の対象区域となり、まだまだ先の見えない状態ですが、所蔵品を生かした展示やお子さんも安心して楽しめるイベント等を工夫して、地域の博物館としての活動を継続していきたいと思っています。

所蔵品による企画展 「川合玉堂 墨の詩情」

令和2年6月2日（火）～6月28日（日）

当初4月を予定していましたが、臨時休館となったため会期を変更して開催しました。川合玉堂の季節感にあふれた風景画は多くの人に愛されていますが、その色彩豊かな作品の基本には、自在な墨の表現があります。若い頃から京都で運筆を学び、円山四条派や狩野派の画法のほかにも、琳派の技法など幅広く習得しました。また、歌や俳句を愛した玉堂は、書についても師に学び、素晴らしい画賛や書を残しています。的確な筆運びと墨ならでの濃淡やにじみによる表現を習得し、さらに彩色との調和を試みることで、日本画による風景画の近代化への道を切り開いていきました。

本展では、所蔵品の中から、おもに玉堂の墨の表現の豊かさが感じられる日本画19点（軸17点・屏風1点・額装1点）および関連資料（書2点、写生帖1点・書簡2点）を展示しました。令和元年度に新収蔵となった書「外寛内明」と書簡2点（明治45年雄山瑞倫宛て・昭和19年吉野貞木宛て、6・7ページ参照）は初出品となりました。

（学芸員 杉山章子）



所蔵品による企画展 「杉本健吉素描展 旅の空から」

令和2年8月29日（土）～9月20日（日）

企画展「2020 一宮美術作家協会展」が中止になったことから、急遽開催したものです。当館は、洋画家・杉本健吉（1905～2004）の作品を遺族より多数ご寄贈いただき、2007（平成19）年に「杉本健吉遺贈記念展」を開催しましたが、今回はその時以来の展示となりました。

名古屋に生まれた杉本健吉は、図案の仕事をするかたわら画家として研鑽を積み、国画会で評価を得ま

した。1940（昭和15）年からは奈良をたびたび訪れて古都の風景や仏像などを描き、第5回新文展で特選を受賞しました。57歳のときには初めての海外旅行でインドや中近東、南ヨーロッパを訪れ、その後も88歳で亡くなるまで世界各地を旅しました。旅先では水彩やパステルなど様々な画材で素描を描き、本格的な絵画作品に劣らない魅力のある作品となっています。今回の展示では特に旅先で得た感動が生き生きと描かれた素描作品33点と吉川英治宛の書簡1点を展示しました。また展示室につづくギャラリーには「新平家物語」の挿絵の複製画や、何度も訪れた中国のスケッチの複製画、『墨絵奈良』などの画集も展示しました。自由な視点で描かれた素描作品により、画家とともにちよつとした小旅行をお楽しみいただけたのではないかと思います。

（学芸員 杉山章子）



企画展 「一宮写真協会選抜写真展」

令和2年9月24日（木）～10月4日（日）

一宮写真協会会員による選抜写真展で、「今私の思いを伝えたい」をテーマに、33名が力作を出品しました。これまで博物館の主催事業として開催してきた「一宮美術作家協会展」と「一宮写真協会選抜写真展」は、令和3年度より協会の主催事業として開催される予定です。



企画展 「一宮市現代作家美術秀選展」

令和3年3月20日（土・祝）～4月4日（日）

一宮市美術展依頼出品者・市長賞受賞者、一宮美術作家協会・一宮書道協会・一宮写真協会推薦者の作品を展示するものです。特別展「発掘された日本列島

2020」が12月の開催となったことから、例年とは異なり、3月～4月の開催となりました。

夏季イベント 「博物館で夏祭り！」

令和2年7月18日（土）～8月30日（日）

平成29年度から開催している催し物です。今年度は、「クイズでいち早く博士になろう！」と題して様々なワークシートを用意しました。それぞれ「初級」「上級」「超級」「超上級」とレベル別に分けて配布し、小さな子どもから大人まで楽しめる工夫をしました。館内を回りながらクイズを解く「クイズで博物館マップ」のほか、特集展示「オリンピック記念コイン」に関連したワークシートも配布しました。従来から配布している「シルエットクイズ」は種類を増やして徐々に難しいバージョンに挑戦してもらえようにしました。期間中、道具が妖怪に変わる工作イベント「かわり絵カード 妖怪バージョン」も開催しました。

さらに、昨年に引き続き、博物館・三岸節子記念美術館・尾西歴史民俗資料館の3館連携企画として、3館をめぐりスタンプを集める「いちのみやミュージアムズ 3館deスタンプラリー」を実施しました。また、「いちのみやミュージアムズ おうちdeガイドツアー」と題して、自宅で歴史や文化、芸術に触れることが出来るように、3館の常設展示を知ってもらう紹介番組をケーブルテレビICCや一宮市公式YouTubeチャンネルで放送し、展示内容等に関するクイズを出題する企画も行いました。

（学芸員 吉川ひとみ）



「クイズで博物館マップ」などのワークシート



かわり絵カード 妖怪バージョン

企画展「禅僧の書」

令和2年10月17日(土) ~ 11月15日(日)

博物館に隣接する臨済宗妙心寺派の妙興寺に伝わる白隠慧鶴(1685~1768)やその弟子・東嶺圓慈(1721~1792)など、近世に活躍した禅僧の墨蹟等を展示・紹介しました。

妙興寺は、創建当初、大応派を中心とする諸派の禅僧が十方住持制のもとで住職をつとめていましたが、天正期以降に妙心寺の住職から南化玄興が妙興寺の住職をつとめたことによって、以後、妙心寺派の禅寺となりました。

その妙興寺には白隠の筆になる書画が十点余りあります。またその弟子・東嶺が賛を付した「西天・東土列祖像」三十三幅は大作です。白隠が妙興寺を訪れたという記録は見出せませんが、弟子の東嶺は二度にわたり妙興寺を訪れています。東嶺の下で修学した商隠令喆が妙興寺の住職となったことで、妙興寺もまた白隠法系の禅寺として発展しました。さらに妙興寺が一時無住の際、犬山瑞泉寺塔頭輝東庵の隠居・顧鑑古汜(白隠・東嶺系)が住職をつとめたことで、より一層白隠法系の禅寺として確立していききました。

本展では、妙興寺住職の商隠・顧鑑の事跡や東嶺との関係を紹介し、妙興寺が白隠法系の禅寺として発展していく過程を示しました。また妙興寺に残された近世の寺宝目録や開帳の記録と照らし合わせて、妙興寺において墨蹟・禅画等がどのように受け継がれてきたのかを、歴史的経緯を踏まえつつ紹介しました。

(学芸員 石黒智教)



白隠慧鶴筆 達磨図 (妙興寺蔵)



特別展「発掘された日本列島2020」

令和2年11月28日(土) ~ 12月27日(日)

「発掘された日本列島」展は、文化庁主催で行う全国巡回の展覧会で、平成7年度から始まり、今年で26回目を迎えました。令和2年度は、江戸東京博物館(東京都)、新潟県立歴史博物館(新潟県)、福島県立博物館(福島県)、一宮市博物館、中津市歴史民俗博物館(大分県)の5館を巡回しました。当館では平成17年度に開催しており、今回は約15年ぶりの開催となりました。

全国の最新の発掘成果をはじめ、地域性が強く出た特徴ある遺物、史跡や天然記念物を活用・保護する事業の紹介など全国各地から51遺跡約670点の出土品等を展示しました。また、2階の常設展示室の一面にある特集展示コーナーでは、地域展として「発掘された一宮・福塚前遺跡発掘調査速報」と題し、平成30年度、令和元年度の2期にわたって行われた福塚前遺跡の発掘調査の速報成果を紹介しました。

感染症対策に万全を期すため、イベントは事前申込制にし、密にならないよう配慮して行いました。「ドキドキ!?発掘体験」では、申込開始時間からわずか15分で定員に達するという盛況ぶり、当日は子どもたちが楽しそうに埴輪など遺物のフィギュアを砂から掘り出していました。



展示風景



ドキドキ!?発掘体験

また、「福塚前遺跡発掘調査ウラ話」は、展示室の関係上、限られた人数での開催となりましたが、定員いっぱいまで参加していただきました。参加された方は、福塚前遺跡は勿論のこと、発掘調査にも大いに興味を示していました。なお当イベントは緊急事態宣言の発令に伴い、4回開催する予定のうち後半2回が中止となりました。

広報活動は、中日新聞に掲載した全5回の展示紹介コラムなどメディアでの紹介や、当館のSNSで精力的に行いました。そのおかげもあり、このような状況下でありながら、3389人の方が来館されました。来館者2020人突破の際には、2020人目の方に当館所蔵の土器を模した壺と図録を記念品として贈呈いたしました。

全国を巡回する今回の特別展は開催が危ぶまれる場面もありましたが、全5館で無事に開催できたことが何よりの成果です。今までどおり行かないところは多々出てくると思いますが、これからも発掘調査ひいては考古学の魅力を皆様にお伝えできる展示を継続していきます。

(学芸員 瀧はる香)

企画展「くらしの道具」民話の世界から」

令和3年1月16日（土）～3月14日（日）

平成3年度から始まり、毎年1月から3月にかけて開催している企画展「くらしの道具」も、今年度で30回目を迎えました。今回も例年通り、一宮市内の小学校42校全ての小学3年生が順次見学に訪れ、電気やガスがなかった時代に、どのような道具を使っていたのかを見学しながら学習し、長着・わら草履や石臼ひきの体験などを通して昔のくらしを体験する予定でした。しかし、コロナ禍で緊急事態宣言の発令もあり、児童の安全を確保することが困難なことから、今年度は団体見学を中止しました。その代替として、テレビ会議システムを利用し、42校を19の中学校校区に分けてオンライン授業を行いました。

授業に備え、事前に常設展示室を撮影して、実際に見学しているように感じてもらえるような映像を制作しました。映像の途中には、オリジナルキャラクターのどきどきちゃんがクイズを出すコーナーも入れて、児童に興味を持ってもらえるように工夫しました。昔のくらしと古い道具に関しては、企画展示室内の様子を授業日に配信し、学芸員が道具の使い方やくらしについて解説しました。また児童からのさまざまな質問に答える時間も設けました。オンライン授業は初の試みだったため、何度も模擬授業を行い、ネット回線の問題等、試行錯誤しながらも、何とか無事に終えることが出来ました。

また、今回は「民話の世界から」をテーマに、馴染みのある物語「たぬきの糸車」や「舌きりすずめ」などに登場する道具を、ギャラリーと小展示室にて紹介しました。見知った物語に登場する実物の道具を見てもらうことで、古い道具にさらに興味をもってもらえたのではないかと思います。さらにラウンジでは、電気・ガスがある時代のお茶のの様子を再現しました。観覧者の方からは、白黒テレビやダイヤル式電話機を見て「懐かしい！」や、手回し洗濯機を見て「これは

何？」とびっくりされるなどの反響がありました。今後も時代比較ができるように工夫しながら展示を企画していきたいと思っています。

企画展の関連イベントとして、「とびだす！動く！しかけ絵本を作ってみよう」や「昔の道具を調査しよう！」を予定していましたが、緊急事態宣言の発令を受けて、残念ながら中止しました。

会期中は、緊急事態宣言下という厳しい状況下でしたが、週末などは親子連れをはじめ、幅広い年齢層の方々に来館していただきました。

（学芸員 吉川ひとみ）



「お茶の間」の再現



民話の紹介と道具の展示



オンライン授業の様子



昔の道具の展示

特集展示コーナー

2階の常設展示室の一面を「特集展示コーナー」とし、博物館に所蔵あるいは寄託されている美術工芸品を中心に様々なテーマで紹介しました。

●「戸島光基の一宮絵日記」前期4月7日～6月7日 後期6月9日～6月28日

●「オリンピック記念コイン（藤原コレクション）」

6月30日～10月4日

●「没後80年 森半逸 山水の美」

前期10月6日～10月25日 後期10月27日～11月23日

●「発掘された一宮」11月28日～1月31日

●「郷土の漢詩人・森春濤」2月2日～2月28日

●「墨コレクション 洋装 軍服からスーツへ」

3月2日～4月4日

4月から臨時休館をはさんだ6月にかけては、京都の日本画家・戸島光基（1909～1963）が戦中・戦後に一宮の支援者宅を訪れて、滞在中の楽しい思い出や戦後の一宮の街並みを達者な筆づかいで描いた絵巻（「訪宮戯画」全2巻と「一宮絵日記」）を紹介しました。

7月からは東京オリンピックの開催が予定されていたことから、市内の方から以前に寄贈いただいたコインコレクションに含まれていた1954年以降のオリンピックの記念コインを、各オリンピックの紹介や墨コレクションの万国旗とともに展示しました。夏休み期間中には、子ども向けのワークシートも用意しました。珍しい展示のためか、NHKの朝のニュースで紹介されました。

10月は、一宮市島村出身の南画家・森半逸（1848～1940）と、その弟の森半景（1858～1938）の作品を、自在な表現が感じられる山水画を中心に紹介しました。前期と後期であわせて13点（半逸の軸8点・屏風1点、半景の軸4点）を展示し、この中で半逸の4点の四季山水画は、新たに表装して初の出品となりました。

「発掘された一宮」は、特別展「発掘された日本列島2020」に合わせ開催したもので、近年一宮市今伊勢町の福塚前遺跡で実施した発掘調査で発見された考古資料と調査の状況を紹介しました。会期中、発掘を担当した学芸員による展示説明を企画し、12月は開催できましたが、1月は緊急事態宣言の発令により開催を中止しました。

2月は、一宮市の出身で幕末から明治時代にかけて全国的に名の知られた漢詩人であった森春濤（1819~1889）の多くの詩の中から、特に地元で詠まれた詩を中心に春濤自筆の書の掛け軸8点と短冊1点に加え、漢詩の記された硯を展示しました。

3月は、毛織物製品500点余りからなる墨コレクシヨンの中から、軍服やスーツなど8点を展示し、西洋における軍服からスーツへの変遷や、日本近代における男性の洋装の普及について紹介しました。明治天皇や佐藤栄作元首相が使用していたコートやスーツなど貴重な資料をご覧いただくことができました。



オリンピック記念コイン



没後80年 森半逸 山水の美

たいけんの森

毎週土曜・日曜・祝日に、夏休み期間中は毎日開催している体験コーナーです。

4月から5月にかけて「民族衣装を着てみよう」と「戦国のよろい・陣羽織の試着体験」を予定していましたが、感染防止のため中止しました。6月以降の催

しは全て紙を用いた工作で持ち帰りができるため、はさみ等道具の除菌を徹底することで実施しました。6月から7月は、東京オリンピックにちなんで「紙でつくるメダル」と題し、カラフルなメダルを作りました。父の日のプレゼントに持ち帰った子もいました。

8月から9月は、館内の展示物をモチーフにした小さな図版が表紙の中で動く「ふりふり研究ノート」を作りました。ノートの中には楽しいクイズのシートを綴じてもらいました。

10月から11月は、企画展「禅僧の書」にちなんで「小さな書の掛け軸」を、11月下旬からは特別展「発掘された日本列島」の開催にちなんで、土器の図版や当館のオリジナルキャラクター「どきどきちゃん」の絵がパタパタと入れ替わる「土器のしかけ絵カード」を作りました。

2月から3月は、企画展「くらしの道具」にちなんで、折り返すと絵が変わる昔ながらの「からくりおもちゃ六角がえし」を作りました。

年間を通じて週末に開催していた「はたおり・糸つむぎ体験」は、感染防止が難しいことから、残念ながら本年度は休止としました。



紙でつくるメダル



小さな書の掛け軸

キッズクラブ

募集期間中に新型コロナウイルスの広がりもあり、応募者は10名と少なかったのですが（のち追加で11名に）、臨時休館明けの6月以降、各展覧会にあわせた鑑賞会などを実施しました。

6月は、博物館の内外に設置されている彫刻や壁画をスケッチしたり見学したりするツアーを行いました。イサム・ノグチや柳原義達の彫刻や絹谷幸二の壁画など、普段見慣れている作品も改めて発見があったかと思えます。7月は、特集展示「オリンピック記念コイン」をワークシートの問題に挑戦しながら見学しました。8月は「民俗資料の図鑑をつくらう!」と題して、昔の道具をスケッチしてどのように使われていたかを想像してみました。9月は、牛乳パックで手作りカメラを作ってカメラの仕組みを学ぶとともに、企画展「一宮写真協会選抜写真展」を見学しました。10月は、ワークシートを用いて企画展「禅僧の書」を見学した後、隣の妙興寺で座禅を体験しました。12月は、特別展「発掘された日本列島」をシルエットクイズを解きながら見学しました。



彫刻・壁画の見学ツアー



妙興寺での座禅体験

古文書講座「古文書にしたいしむ」

今年度で29回目を迎えました。今年度はコロナ禍での開催となり、感染防止対策を講じながら開講しました。しかし5月から8月及び2月は中止とし、9月から1月まで5回開催して、1月9日（土）の開催をもって今年度の講座を終了しました。これまでグループでの学習でしたが、一机一人として間隔をとり、講義形式としました。

今年度は中島郡苅安賀村（一宮市大和町苅安賀）の豪農関戸家所蔵の資料より明治2（1869）年の「土民蜂起日誌」を読み進めましたが、残念ながらすべて読み終えることは出来ませんでした。



博物館実習

8月18日（火）から22日（土）までの5日間、愛知県立大学2名、愛知学院大学1名、名古屋芸術大学1名、中部大学1名、滋賀県立大学1名の全6名（定員6名）の学生が学芸員資格の取得に必要な実習を行いました。最初は館内の設備や主な活動、組織などについてレクチャーを受け、その後、掛け軸や温湿度計の取り扱いの実習や、企画展「杉本健吉展」の複製画の展示作業、考古資料の整理を行いました。また2班に分かれて、最終日までを目標に、博物館の民俗資料を利用した小展示を企画してもらいました。テーマ設定や資料の選定、キャプションの作成、そして、ロビーのケースへの展示作業まで、小規模ながらも展覧会の流れを実際に行ってもらうことで、来館者に分かりやすい展示の仕方などを学んでもらいました。



市民文化財めぐり（中止）

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止としました。

文化財防火デー関連行事

毎年1月26日は「文化財防火デー」です。昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺（奈良県斑鳩町）の金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基づいています。

今年度は1月26日（火）に一宮市真清田1丁目2番1号の真清田神社を会場に開催する予定でしたが、国の緊急事態宣言の発令を受けて中止としました。訓練は中止となりましたが、真清田神社の拝殿に横断幕を取り付け市民への啓発活動をするともに、神社関係者、市消防本部、博物館の担当者で真清田神社における防火設備等の点検を実施しました。



真清田神社の横断幕



防火設備の点検

展覧会への所蔵資料の貸し出し

●豊川市桜ヶ丘ミュージアム「いにしへの響き」（11月14日～11月11日）に、浅井古墳群（寿福寺古墳）出土の土製鈴3点（寄託品）。

●愛知県陶磁美術館「特別展「YAYOI・モダンデザイン」（10月12日～12月13日）に、山中遺跡出土資料6点・北川田遺跡出土資料1点・八王子遺跡出土資料14点。

●一宮市尾西歴史民俗資料館「あかりの用と美〜ろうそくからLEDまで〜」（10月10日～11月23日）に、船行灯2点、手提げ行灯・丸行灯・行灯（名古屋行灯）・盆提灯・松明各1点。

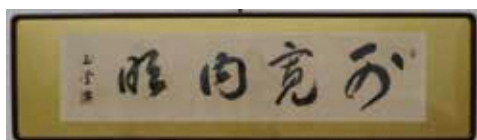
資料紹介

川合玉堂関連資料

近年寄贈された資料の中から、川合玉堂の作品や資料を紹介します。

《外寛内明》30.8×127.3cm、紙本墨書 令和2年度寄贈

「外寛内明」とは、外部に対しては寛大に接し、自身をよく省みて明晰に己を知り身を慎むことを意味します。熟語の意味を体現するようなゆつたりとした書体です。制作年は不明ですが、「偶畚」の印があることから、戦後、御岳に移住してからの作品と思われます。玉堂は、歌人で書家の尾上紫舟とも交流がありました。



《北斎写》22.5×14.0cm、制昨年不詳、紙本墨彩、額装、豊田昌夫氏寄贈、右下に「玉堂」落款、裏面に玉堂会証明「玉堂筆 北斎写 三男題」

葛飾北斎『北斎漫画』全一五編のうちの八編の中にある太った人とやせた人を対比して描いた箇所の一ページを写しています。風景画に点景として人物を描く玉堂にとって、北斎の豊かな人物表現は参考となったのかもしれない。



おやまずいりん
 《雄山瑞倫宛書簡》 封筒入り、明治45年5月13日
 付消印、川合玉堂（東京牛込若宮町二九）↓雄山瑞倫
 （岐阜市伊奈波）、豊田昌夫氏寄贈

拜啓新緑之候
 愈御清適賀上候
 扨御贈下され候御写真
 並に御高作七絶 先日
 無事着 永く紀
 念として珍藏に仕
 奉多謝候 御画帖之
 画尚文の分と共に
 御贈申上候 いづれも駄
 作汗顔の至りに御坐候

五月十一日 玉堂
 草々頓首
 魯岳先生 研北



岐阜の誓願寺の住職であった雄山瑞倫は、少年時代の漢籍の師で、玉堂に大きな影響を与えました。瑞倫が亡くなる昭和10（1935）年まで交流がありました。

玉堂は、明治45（1912）年、29歳の頃、亡き両親らの菩提を弔うため袈裟に雲竜図を揮毫し、誓願寺に寄進しました。同年2月24日に玉堂が瑞倫にあてた書簡（※）で、瑞倫が袈裟を着た写真を記念として送ったように、本書簡で謝意を伝えています。文中の「尚文」は日本画家の佐々木尚文であると思われます。尚文は岐阜県揖斐郡の出身で、明治41年頃、瑞倫の紹介で玉堂に入門しました。

※誓願寺蔵で岐阜市歴史博物館寄託。2013年に岐阜県美術館で開催された「素顔の玉堂 川合玉堂と彼を支えた人びと」展図録に掲載。「袈裟」についても同図録に掲載。

《吉野貞木宛書簡》 巻紙1枚・封筒、額装
 昭和19年7月16日 川合玉堂（東京牛込若宮町二九）
 ↓吉野貞木（都下西多摩郡青梅町）、豊田昌夫氏寄贈

拜啓輸送奉十八日に
 御遣はし下され候様御取計
 忝く奉謝候 尚何くれと
 御配慮相煩はし可申宜
 敷御依頼申上候 昨日拙者
 の多摩川移動の事
 を向側の中村吉右衛門
 氏に語り候処 中村氏は拙
 者の動静を注意致し
 居られ候よしにて是非附
 近に於て行動を共にし
 たしとの事に候 頗りに
 依頼され申候 御心配被成下
 度候 或は木崎氏の珍屋
 等も如何と存候へ共借賃
 等法外の事申され候
 やも難計これも不安
 に考られ申候 他に若し名案
 もあらせられ候ハ、急に御
 心配相願度候 御多忙中へ
 重ね重ね色々の御願
 申出御迷惑とは十分拝
 察仕居候へ共右之次第
 に付御依頼申上候
 尚十八日には※村雲氏先
 発 天野氏方へ参り荷
 物を待ち受けくれ候手
 筈に候 荷物には※阿部

同乗の予定に御坐候
 尚天野氏へも御序も候
 ハ、よろしく願上候
 草々頓首
 七月十二日 川合玉堂

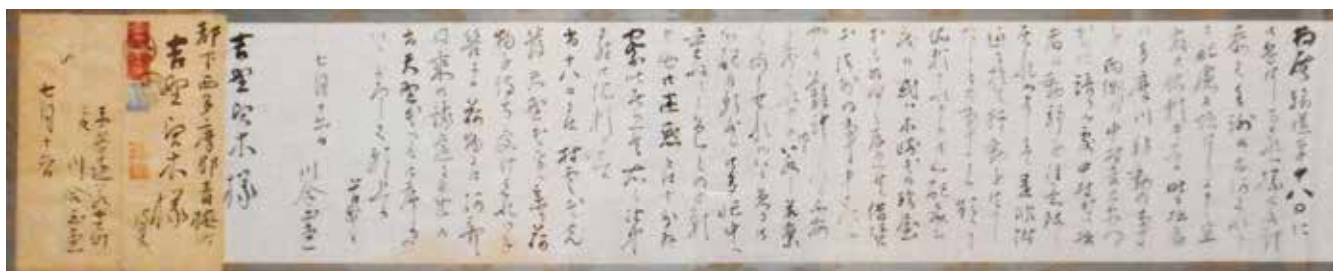
昭和19年、御岳に疎開するにあたり、引越しの段取りを相談する内容の書簡であると思われます。東京牛込で近所に住んでいた中村吉右衛門が玉堂の疎開を気にしている様子が分かります。東京の家は翌年5月に戦災で焼失し、戦後はそのまま御岳に移り住みました。

※「村雲氏」：村雲大機子（むらくも・た いぼくし 1893～1957）か。東京出身。岐阜県立中学卒業。昭和6年、玉堂に入門。

※「阿部」：阿部六陽（あべ・ろくよう 1906～1987）か。新潟県出身。大正14年、玉堂に入門。

書簡に登場する人名について、岐阜県美術館学芸課長・青山訓子氏にご教示をいただきました。

（学芸員 杉山章子）



史料紹介

「土族編入再願」と伏水隊

新選組が活躍した十九世紀中頃の京都では、諸藩から多くの尊王攘夷・倒幕運動の志士等が集まり衝突を繰り返していた。その最大のものが「戊辰戦争」である。慶応四年（明治元年・一八六八）から明治二年にかけて、鳥羽・伏見の戦いを経て箱館戦争までの約一年間、国内は内戦状態にあった。

さて、慶応四年一月十四日、朝廷側についた尾張藩は勤王誘引活動を開始する。「勤王誘引」とは、官軍が滞りなく京都から江戸まで到着するために、その街道筋の諸領主を朝廷側に帰順させることであつた。尾張藩として諸領主に対する宣伝活動をする一方で、旧幕府を倒す計画として、勤王を志す豪農や知識人等（勤王の志士）が民兵を組織した。

尾張藩内では平田派の国学徒や豪農を中心とする農民や博徒等によって「草薙隊」「磅礴隊」「正気隊」「帰順正気隊」「集義隊」などの草莽諸隊が組織された。彼らは尾張藩の意向に従い、指示のもと、北越などに派遣され、旧幕府軍残兵掃討などを担っていた。

一宮においても、勤王を志す知識人等が京都・伏見で結成された「伏水隊」などに入隊している。一宮村からは「春日井市之進の将」「原田摂津」「谷津左京」「神戸近江」等が勤王を志し「御親兵会議所」「太政官内軍防局御親兵会議所」等に採用された。原田摂津は軍務官（後に兵部省に改組）内裁判追補方を、谷津左京・神戸近江は共に二条城内御警衛を勤めていた。彼らはまた真清田神社の神官等であつた。

さて、小稿では、御親兵「伏水隊」に入隊した春日井市之進の将、春日井市之進の土族編入再願の史料を紹介したい。この土族編入再願は『明治

十二年 上申留』（当館蔵・写真①）に綴られている。



写真①

この『上申留』の綴りは、明治十二年（一八七九）一月から十二月までの一年間に、当時の一宮村の村民や社寺関係者から愛知県令や国に対して提出された上申書を綴ったものである。

土族とは戸籍法上における身分階級で、多くの場合、旧幕府時代の武士階級であつた。新政府が発足すると、身分編成が行われ、皇族、華族、士族、平民と区分された。土族以上はいずれも国家から禄が給与される特権階級であつた。

勤王志士の多くは御親兵隊等の解散後に復籍を命じられ平民となるが、これまでの活躍から土族への編入を願ひ出る者も多くいた。彼らは討幕運動で活躍するも、多くが土族に編入されず不満があり、全国的に何度も「土族編入願」を提出している。春日井市之進もその一人であつた。

ちなみに、一宮村の明治十八年の調査によれば、一九九八戸のうち、約一・二%の二五戸が土族である。

では伏水隊に入隊した春日井市之進はどのような人物であつたのであろうか。春日井は明治十年に「土族編入再願」を願ひ出るが、明治十二年になつても上から「未タ何分ノ御指令」が無いため、明治十二年六月二十日に再度願ひ出た【9頁・史料①】。しかし、明治二十年においても春日井市之進は平民のまま、この願ひも認められなかつたと思われる。

春日井市之進が所属した伏水隊とは、慶応四年

一月三日・四日の鳥羽・伏見の戦いで朝廷軍が勝利した直後、朝廷（天皇）の身辺を警護する御親兵として創設された。隊長は来島頼三、長官は望月市太郎義高とされている。伏水隊は京都・伏見において結成された以外に、信濃においても樽沢信之助のもと官軍である「伏水隊」が結成されているが、小稿で紹介する伏水隊は前者の京都・伏見で結成された伏水隊である。

「土族編入再願」には春日井市之進の履歴書【史料②】が付されているので、それを参照しながら、当時の動きをみてみよう。春日井市之進は一宮村に生まれた。明治二十年に一宮村が地誌編纂に際し調査した「明治維新之際御親兵志願履歴」（当館蔵）によれば、真清田神社旧神主従五位佐分但馬守の家来であつたことがわかる（写真②）。



写真②

春日井は、慶応四年三月に上京し、仁和寺宮に願ひ出て、二条城内の護衛にあたり、京都市中の巡視をしていた。その後、伏水練兵場で訓練を行う。伏水練兵場とは、京都市伏見区の旧伏見奉行所の与力・同心屋敷跡に設営された練兵場である。明治二年三月、朝廷の東京への移動に供奉、守衛した。東京に着くと直ちに箱館へ向かう。箱館では箱館知事総督清水谷侍徒（清水谷公考）に従つた。「津軽陣屋・五稜郭陣屋并天台場ノ三ヶ所ニテ戦闘」を数回繰り返した。いわゆる箱館戦争である。

その後、箱館戦争に敗れた旧幕府兵を東京まで護送し、明治二十年十月、京都へ戻る際、天盃を拝領した。明治二十一年十一月に京都へ戻ると、伏水練

兵場において習練した。明治三年正月には北越・奥州・函館等が平静したことによって、感謝状と慰労金を拝領した（写真③）。その後、平民に復籍した。



写真③

残念ながら土族編入は叶わなかったものの、以後、一宮小学校世話方、一宮村副戸長を経て、明治十二年一宮村会議員をつとめ、明治十七年に地誌編纂委員を拝命している。

土族編入は新政府のために活躍した者にとって念願の戸籍であった。一方で、新政府としては財政を圧迫せざるを得ない戸籍でもあるため土族階級を増やすことに難色を示した。また徴兵制度を整えて、新たな陸軍を組織することで、勤王の志士を中心とする諸隊を解散させる意図もあった。平民の勤王の志士たちには、余りにも残酷な現実であった。

【史料①】

土族編入ノ儀ニ付再願

尾張国中島郡一宮村平民 御親兵ノ節春日井

剽之将事改名

春日井市之進

○私儀

明治十年一月中土族編入ノ儀ニ付、六名ノ者連署書取ヲ以テ奉願置候処、未タ何分ノ御指令無御座御模様ノ程ハ不相辨候得共、予テ上申仕置候通、過戊辰年正月伏見動乱ノ砌上京仕、仁和寺御宮^江奉殿志願筋言上仕御親兵會議所^江勤王ノ旨奉願、則御聞届ノ上、別冊履歷書之通、

二條御城内^江御繰込相成、乍不肖碎身尽力精勤罷在候処、己巳年三月 朝廷御東行ニ付供、奉殿陣被仰付、同年五月箱館表^江出兵同所ニ於テ度々戦争仕、則戰場ニ於テ第一号写之通御賞書下賜、其後殘賊降伏ニ付、護送東京工着、降伏人引渡ノ上西京ニ着、庚午年正月第二号写ノ通御感状^并御慰勞金下賜弥碎身尽力罷在候処、朝廷ヨリ一般復籍之儀被 仰出、即チ歸村仕候、然ル処、過般勤 王ノ者一統土族^江編入被 仰付候趣粗拝承仕候付、前願一昨十年一月中書取ヲ以士族^江御編入之儀奉願置候処、何分ノ御指令無御座、右ハ勤 王ノ一廉ヲ以士族編入被 仰付候様仕度、因テ御賞書ノ写^并履歷書相添、此段奉再願候也

右

明治十二年六月二十日 春日井市之進 ④

愛知県令安場保和殿

前書之趣願出候也

明治十二年六月二十日 林弥九郎

書面願之趣難及詮議候事

明治十二年六月二十日

【史料②】

履歷

愛知県尾張國中島郡一宮村

平民

御親兵ノ節春日井剽之将事改名

春日井市之進

一、慶応四年辰正月伏見動乱之砌、上京同三月 御親兵ニテ二條御城内詰兵士被 仰付、勤王仕市中巡邏等被 仰付、日夜勉強罷在、其後伏水練兵場工繰込被 仰付日々仏式勉強ス
一、明治二年己三月朝廷御東行ニ付供 奉殿陣被 仰付、御道筋守衛精勤仕、東京御着輿ノ上、直ニ箱館表^江出兵被 仰付、同年五月

同所ニ渡海シ、同七月迄知事総督清水谷侍徒殿ニ順シ度々戦争仕、依其功御賞書下賜其後降伏人護送東京歸營ス
一、明治二年十月帰京之砌、出兵一統江奉戴天盃
一、同年十一月西京ニ着、如前々伏水練兵場ニ於テ精勤ス
一、明治三年正月感謝状^并御慰勞金下賜
一、北越奥州箱館等全平静ノ折柄朝廷ヨリ被 仰出候儀有之、一同復籍被 仰付、則西京旧徳川慶勝邸留守居^江〔加藤増治郎〕御引渡相成、因テ歸村ス
右之通御座候

【史料③】

第一号写

御親兵

伏水隊

賊徒追討ニ付、辺陲僻地山海到超越奮戰激闘忽遂成功候段、全忠勇ノ至実不堪感佩候、此旨速ニ可及 奏聞候也
五月 公

【史料④】

第二号写

御親兵伏水隊

春日井剽之将

己巳年流賊追討ノ命ヲ奉シ地ニ涉リ各所戍衛精勤ノ段神妙被 思食候、依為慰勞目錄ノ通下賜候事
庚午正月 兵部省

【参考資料】

『一宮村地誌編纂書類』明治三十一年、博物館蔵

『一宮市史 上巻』（復刻版、国書刊行会、一九九〇年）

『愛知県史 通史編5 近世2』（二〇一九年）

（学芸員 石黒智教）

登録有形文化財（建造物）の登録

葛利毛織工業株式会社工場など

登録有形文化財は、平成8（1996）年及び平成19（2007）年の文化財保護法改正により導入された制度です。建造物の分野で登録の対象となるのは、築後50年を経過し、①国土の歴史的景観に寄与しているもの、②造形の規範となっているもの、③再現することが容易でないものの、いずれかの基準に該当する建造物となります。

このたび、一宮市木曽川町玉ノ井の木曽川沿いにある葛利毛織工業株式会社の工場とその関連施設群について、①に該当するとして、令和2年3月19日、国の文化審議会より文部科学大臣に答申がなされ、同年8月17日付をもって文化財登録原簿に登録されました。「職住一体の経営形態の様相を今に伝え、今なお毛織物業を営む建物群で、当地域の歴史的景観を形成している」と評価されました。登録されたのは以下9つの建造物です。

- ①昭和7年頃に建設された工場（昭和20年・30年代増築）
 - ②和風座敷を備えた外観洋風の事務所（昭和7年頃）
 - ③職住一体の工場施設の様相を伝える主屋（昭和24年頃）
 - ④端正な造りの離れ（昭和7年頃／昭和25年頃・昭和50年頃増築）
 - ⑤住み込みで働いていた時代の男子寮（昭和27年頃／昭和32年頃増築）
 - ⑥附属施設の浴場及び便所（昭和30年頃／昭和30年代増築）
 - ⑦近代産業施設の景観に趣を添える江戸末期の土蔵
 - ⑧敷地西側の景観を構成する原系倉庫（昭和23年頃）
 - ⑨倉庫（昭和32年頃）
- 一宮市はのこぎり屋根工場が多く残る地域ですが、市内で織物工場が文化財登録されたのは初めての事です。これにより市内の指定・登録文化財の件数は、国指定18件（国選定を含む）、県指定34件、市指定249件、国登録23件（建造物・名勝地関係を含む）、合計324件となりました。



横板を重ねた「下見板張り」の洋風の外観が特徴の②事務所。2階の座敷には床の間もあり、和洋折衷となっている。



南側門から見た建物群。正面が①工場、左手が②事務所、右手が③主屋。



トラス組の屋根が見える①工場内部。今も低速の「ジョンヘル型織機」11基で高級紳士服の生地を織っている。



北側から見た高窓のあるのこぎり屋根の①工場。奥（写真右手）には下見板張りの⑧原系倉庫と⑨倉庫が連なる。

展覧会・催し物

所蔵品による企画展

「川合玉堂 水の表現」

4月17日(土)～5月16日(日)

所蔵品による企画展

「寛忠治」

6月5日(土)～7月4日(日)

夏季イベント

「博物館で夏祭り！」

7月17日(土)～8月31日(火)

特別展示

「横井庄一さん 絵本原画とゲーム島生活資料」

7月17日(土)～8月15日(日)

企画展「妙興寺文書の世界」

10月16日(土)～11月14日(日)

企画展「2021 一宮市現代作家美術秀選展」

12月4日(土)～12月19日(日)

企画展「くらしの道具」

1月15日(土)～3月13日(日)



川合玉堂《草紅葉》



絵本『よこいしょういちさん』
亀山永子作

企画展「妙興寺文書の世界」

令和3年10月16日(土)～11月14日(日)

博物館に隣接する臨済宗妙心寺派の妙興寺には、国の重要文化財「妙興寺文書」(博物館寄託)があります。建保年間(1213～18)に作成された「尾張国落合郷検注帳案」から明治21(1888)年3月18日付けの妙興寺住職虔嶺守直の「妙心寺住持職推挙状」にいたる549通が、平成5(1993)年に国の重要文化財に指定されました。これらの文書群は中世禅宗の歴史を知る上で大変重要な文書であるばかりでなく、中世の尾張国の史実を知る上でも重要です。時の権力者等から発給された文書も含まれ、歴代住職によって大切に保管されてきました。

妙興寺創建開山の滅宗宗興は、応安6(1373)年に重要文書の控えである「重書案」(滅宗宗興自筆妙興寺重書目録)を作成し、京都・本寺龍翔寺に預け、万が一の紛失に備えていました。また、後の住職無隠徳吾は、滅宗の伝記や妙興寺の寺誌(尾州妙興報恩禅寺記)を作成していますが、これまでの文書管理がなされた上で作成されており、寺史編さん上、特記すべきことです。

しかし、妙興寺は中世に何度も罹災しており、焼失・紛失した文書も多くありました。時代が移り近世になると、時の住職南梁密鍼などは妙興寺文書に対する思いが人一倍篤く、卷子や折本に装幀しており、今日、私たちが目にするのが出来る文書のほとんどは、南梁によって整理されたものです。

その後「妙興寺文書」は、寛政元(1789)年に尾張藩主宗睦へと献上された『張州雜誌』で知られるようになります。寛政6(1794)年には尾張藩士岡田啓が「尾張国妙興寺文書」として書写し、その後、嘉永3(1850)年に小野忠質が書写した文書を、東京大学史料編纂所の前身で、塙保己一が設置した和学講談所に収蔵されました。大正4(1915)年には同大学史料編纂所が妙興寺文書を採訪しています。

また、一宮市史編さん事業の一環として妙興寺文書を翻刻した『新編一宮市史 資料編五』(1963年)の刊行は、研究者の便宜を図りました(収録方法に問題があり、原本が写本であるにも関わらず同時代史料として時系列内に収録)。近年では、愛知県史編さんの事業によって『愛知県史』の資料編に収録されました。さらに、海外の研究者の眼にも留まり、近年プリンス頓大学のトーマス・コンラン教授とその学生が日本での現地学習の際、「妙興寺文書」を閲覧に訪れました。

本企画展では、今日まで大切に保管されてきた「妙興寺文書」を一堂に会して展示、紹介します。「妙興寺文書」は系統立て整理されており、目的の部分を展示するには不向きな面もありますが、今回は可能な限り広げて展示したいと思います。展示では、「妙興寺文書」の管理の在り方や近代における文書の調査等について歴史的な背景とともに紹介し、中世文書の楽しみ方を発見していただければと思います。

(学芸員 石黒智教)



滅宗宗興自筆妙興寺重書目録



尾州妙興報恩禅寺記(部分)

特集展示コーナー

山喜多二郎太
自由な墨絵の世界

前期4月6日(火)～4月29日(木)
後期5月1日(土)～5月30日(日)



山喜多二郎太《山村の春》

記念コインで世界旅行(藤原コレクション)

6月1日(火)～8月29日(日)

生誕110年 三枝惣太郎 彫刻と絵画

8月31日(火)～10月17日(日)

山本梅逸 花鳥の美

前期10月19日(火)～11月7日(日)
後期11月9日(火)～11月28日(日)

墨コレクション 舶来の布の装い

11月30日(火)～2月13日(日)



山本梅逸《ぶどうとカマキリ》

尾張の洋画 佐分眞

2月15日(火)～4月10日(日)

たいけんの森・わくわく体験
とびだせ!

山喜多二郎太・龍の天井画

4月3日(土)～5月30日(日)

ライトで照らせ!

島畑のいきもの

6月5日(土)～8月1日(日)

土器のうちわ

8月3日(火)～10月3日(日)



とびだせ! 山喜多二郎太・龍の天井画

花鳥画で扇子

10月9日(土)～11月28日(日)

ときどきちゃん福笑い

12月4日(土)～1月30日(日)

そうかな? パズルBOX

2月5日(土)～3月27日(日)

博物館キッズクラブ 新規会員の募集

学芸員といっしょに博物館に展示してある様々な資料を見て、楽しみながら学びます。

▼対象/小学校3年生～中学生

▼定員/20名(抽選)

▼申込/4月末までに(定員に満たない場合は随時募集)はがき又はFAXに名前・学校名・学年・住所・電話番号・保護者名・メールアドレス又はFAX番号を記入の上、「博物館キッズクラブ」係まで。「いちのみや子育て支援サイトアプリ」からも申し込み可。

常設展年間観覧券

常設展示(特集展示や常設展と同額の企画展を含む)を、ご購入から1年間、何度でもご覧いただけるお得な観覧券です。ぜひご利用ください!

新人学芸員の紹介

令和2年度から一宮市博物館で学芸員として働いている吉田菜由です。大学で考古学を専攻し、博物館では埋蔵文化財業務を担当しています。一宮市



花鳥画で扇子

内には400か所以上の埋蔵文化財包蔵地(主に遺跡といわれるところ)があります。その地内で工事を実施する際に提出される届出の手続きをしたり、工法の確認をした上で、場合により工事中に立会を行ったりします。

工事立会では土層の記録をとります。土層の違いや変化を観察して記録をとることで、遺物の出土しやすい層がわかり、近くで工事を実施する際の参考になります。また、土器などの遺物や遺構(溝などの過去の暮らしの跡)の有無を確認します。実際に、工事立会中に多数の土器片が出土した経験も何度かあります。一宮市内でも地域によって土の堆積の様子がかなり異なるので、今後も立会などで現地に赴き、多くの経験を積んでいきたいと思っています。

また、博物館には、これまで一宮市内で行われてきた多くの調査によって出土した土器などが多数保管されています。しかし、私自身まだ把握しきれていないモノが多々あり、一宮市の歴史を物語る大切な財産として活かしていきたいように努力します。入職して一年が経ちますが、まだまだ勉強中の身で、分からないことばかりですが、一宮市の歴史・文化の発展に貢献できるように精進していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

一宮市博物館
だより

第64号

発行日/令和3年3月31日

編集・発行/一宮市博物館

印刷/モリ印刷株式会社

※過去の博物館だよりは、館Websiteでご確認いただけます。

一宮市博物館

愛知県一宮市大和町妙興寺 2390

電話 0586-46-3215

FAX 0586-46-3216

URL <https://www.icm-jp.com/>